

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4391500024
法人名	医療法人社団 孔和会
事業所名	グループホームあかね苑
訪問調査日	平成 19 年 12 月 10 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 12 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4391500024		
法人名	医療法人社団 孔和会		
事業所名	グループホーム あかね苑		
所在地 (電話番号)	天草市久玉町5716-9		(電話) 0969-73-1288
評価機関名	特定非営利活動法人 ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成19年12月10日		

【情報提供票より】(平成19年12月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 12 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	人
職員数	8人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.25人	

(2) 建物概要

建物形態	併設	改築
建物構造	RC造り 一部鉄骨	
	2階建て	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(30000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	330 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	0名	要介護2	3名
要介護3	3名	要介護4	3名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 84.7歳	最低 67歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松本内科眼科、松本医院、市立牛深市民病院、市立河浦病院、天草地域医療センター、うしぶか皮フ科クリニック、規矩歯科医院、生田歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設前から地域の老人会を初め各種団体へ向け、認知症の理解を深めてもらうなどの努力をし、開設1年目とは思えない小学校や婦人会・老人会など地域との交流が広がり、地域の協力体制が整えられている。また母体の病院が隣接し併設のデイサービス等の利用も可能で、家族にとってはより安心な環境となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての評価。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は外部評価に関し事前に勉強し、自己評価は半年前から職員全体で取り組みを開始している。問題点を探し全員で検討・研修し、交流の充実・後見人制度等の学習会を開いて改善に努めている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営会議のメンバーには多くの団体からの参加を得、協力体制が整い2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの現状・行事の報告をしている。また、事故があった場合も全て報告を行うと同時にメンバーから意見の収集を実施している他、いきいきサロンへの参加・老人会での講演・食事の試食会などの意見は、日頃のケアに活かす努力がみられる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営会議には家族代表の参加もあり、苦情箱を設置し、また家族会ではアンケートを実施し意見の収集に努めている。家族の面会も大変多く、いつでも気軽に意見の言える雰囲気作りがある。また面会の少ない家族には写真を添えた近況報告を送り、ホームでの生活の一部を伝え安心を提供している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との交流は盛んに行われている。運営会議には各種団体の参加が得られ、地域行事のどんと焼きや地区の文化祭への作品出展・奉仕活動への参加、さらにふれあい教室での小学生との交流、相撲の天草場所へ家族と一緒に招待する等々、開設1年とは思えない程、地域の一員としての連携がある。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設前から決定していた入居者をイメージし、職員と共に対象者を主体にした具体的な理念が作成されている。理念の中で、家族や地域との結びつきを大切にしたいサービス提供を掲げ、地域の中での生活の継続支援が盛り込まれている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勉強会等で説明し、理念のポイントを理解する仕組みが取られている。日頃の介護で欠けているところを検証できる大切な部分と心得、迷ったら常に理念に立ち返る取り組みがあり、玄関に掲示し、来訪者にもアピールしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設前に地域の老人会を廻って理解を求め、地区の敬老会参加や地区行事には職員と入居者と共に参加するなど、交流が持たれている。また、小学校のふれあい教室の開催や、運動クラブ練習後の休憩所としての役割も果たし、民生委員からの依頼で地域の認知症老人の保護をする等、多様な対応が実施されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	6ヶ月前から自己評価に全員で取り組み、問題点を見極め、不備と思われる点については研修を実施している。また地域との交流の充実・後見人制度の学習など研修し、改善に努力している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・老人会・民生委員・婦人会・元学校長・消防団長・家族会等各方面からの参加を得、2ヶ月に1回開催。ホームの現状・行事・外部評価の報告等を行い、良き理解者となってもらい、メンバーからの有意義な意見が多く得られ、良い運営につなげるよう努力している。近々商店からも委員が加わる予定があり、益々充実した運営推進会議となることが期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者が隣設する居宅支援事業所への来訪の際には、ホームへの立ち寄りを依頼し情報交換を行っている。包括支援センターからも運営推進会議メンバーの一員になってもらい、運営委員へ行政の立場での話をしてもらったり、意見・助言をもらえる良い関係づくりとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会が多く、その都度近況報告を行い、面会の少ない遠方の利用者には請求書発送と共に手紙・写真で報告し、計画等についてはFAX利用での連絡も密に行われている。年1回の家族会ではパワーポイントでの状況報告を行ない、入居者一人ひとりのアルバムを作る等、ホームでの日々の思い出を記録する配慮がある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営委員会、面会時に意見を聞く等、意見を聞くための多様な手だてが作られている。また家族会ではアンケートなどで意見を取り、まとめたものを職員間で検討して、改善策を報告するなどの努力がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設1年目で移動は少ない。移動の場合は1ヶ月前からスタッフとして加わり、徐々に慣れてもらい慣れたところで変わるなどの配慮がある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	あかね苑単独研修の他、本部と合同研修の機会も多く、希望の研修を自分で選んで参加出来る仕組みがある。またリーダー制を取り、誰でもがリーダーになるなどの自分育があり、個人目標設定シートで、自己評価・反省につなげ、スキルの向上を目指す努力がある。	○	開設1年目で職員全体での研修参加等により知識・技術の向上に取り組み、その努力の結果が表れている。今後は勤務体制や研修参加等、職員の熱意に委ねるだけでなく、ゆとりを持った勤務体制を考慮し体力増強を計る事も良いと思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設前に他のホームを見学・研修して回り、交流を計った上でグループホーム連絡協議会へ参加をしている。現在他ホームからの見学も受入れ、交流を図りながら全体の質の向上に協力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の関係づくりの大切さを充分認識し、病院からの入所の時は、何度も病院へ訪ねて事前のケアに努めている。開設後1ヶ月は管理者又は計画担当者のお知らせが夜勤者プラス1名体制で泊まり込み不安解消に努め、現在も新しい入居者があれば泊まり込み、早く馴染まれるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付け、調理方法、正月飾り等の知識や習慣・知恵を教えてもらう機会を多くし、入所者の活躍の場を多く設け職員とのより良い関係づくりに努力されている。また入院中の入所者にはメッセージカードを送るなど、入所者同志の支え合いもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の情報シートを活用し、日頃のケアの中でコミュニケーションに努め、職員全体が気付きを書き込み残すための1冊のメモ帳が備え付けられている。また常に心身などの情報をキャッチし、情報を出し合い担当者がまとめる等の方法で一人ひとりの意向希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制を採用し、センター方式で情報の共有を計り、必要に応じて職員全体で意見交換やカンファレンスが行われている。家族には、訪問時に意見・要望を聞き、訪問のない家族には電話・FAX等で説明や意見の聴取を行い、入居者の幸せを考えたプラン作りが行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年間のホームでの生活や経過記録の詳細な記述で課題を把握し、担当者の意見を聞きPT、OT、医師の意見を取り入れ計画の見直しが行われている。遠くの家族にはFAXでのやり取りを行いながら了承を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体病院への通院や通りに面した立地条件を活かし、近隣の方々との交流の役割を果たしている。また、個別の外出・買い物・美容院等の外出支援や家族も含めた花見などが実施されている。更に花壇の草取りなど婦人会との交流や得意な野菜作りのための家庭菜園等の実施もある。		誕生日担当者との個別の外出(外食)や温泉などへの遠出などの計画ありとのこと実現を期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体の医院へ2週間1回程度、その日のリーダーの付き添い受診が行われている。日誌の詳しい記録を元に医師との連携も密に行い、家族への連絡も充分に行われるなど、適切な医療が受けられる体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り体制についての指針が有り、家族と同意書を取り交わしている。隣が経営母体の医院であることが家族にとっては一番の安心となっている。アンケートでは、あかね苑でのターミナル希望者も4名ある。これからも家族からの希望はいつでも受け入れる用意があり、職員ともターミナルの受入についてよく話し合い、意思を確認し方針の共有が計られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の研修等によりプライバシー・漏えいには十分配慮し、記録等は事務室内に施錠し保管している。入所者の生活歴から聞き取った中で、本人がいやな表情を見せたことには触れないよう配慮し、人生の先輩として尊敬する意識を持って接する様子が伺える。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず入居者のペースに合わせた支援がみられた。食事の時間には、後で食べる人、みんなと一緒に食べたくない人は居室で職員と2人で食べる等の、希望に合わせた支援を心がけている。また急な外出希望にも添うように努力されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付けは職員と一緒にしない、男性も調理に活躍し入居者が力を発揮できるよう支援し、職員は入居者に対して感謝の言葉を伝えながら一緒に準備・後片付けをする姿がみられた。献立は好みにより変更しながら、パン・ご飯等希望に添うように配慮されている。	○	多様な障害を持つ入居者へ、個別な支援は困難と思われるが、常に入居者中心の支援を心がけ実施されている中で、家族など外部から見ると異常に見える事もあり、一度外部の目線で、また入居者の目線と、全ての状況を見渡してみる事も必要と思われる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日4～5名希望に合わせての入浴が可能。必要に応じて職員と一緒に入ることもあり、また一番風呂を好まれる方には湯を入れ替え、気持ちよく入浴できる努力もある。また夜間は夜勤者一人になるまでは入浴出来るよう配慮されている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの特性を活かし、調理の仕事をしておられた方や船に乗っておられた方など、その特技を活かし調理の味付けや野菜の切り方などに活躍している。また読書好きの人には本や新聞を家族に届けてもらうなど、家族の協力も得られている。また、音楽療法を取り入れ、楽しみながらの療養支援もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地が広く2～3人で自由に散歩したり、通所の車の利用がない日曜日は車を利用したお出掛け等、日常的な外出支援が行われている。またご近所との関係作りの支援に近くの商店への買い物や美容院への付き添い等、希望に添った外出の機会が多く持たれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の鍵かけはなく、入居者は自由に出て行くことができ、安全への配慮から「いらっしゃませ」のセンサー音声が来客や外出を知らせている。帰宅願望のある方には個別に寄り添い支援し、自宅までのドライブで仏壇にお詣りし安心を提供するなどの努力がみられる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施されている。緊急事態には母体医院の協力が得られる仕組みがあり、消防団長が運営委員の一員でホームに対する理解もあり、協力・支援が受けられる仕組みが出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の栄養士による献立をベースに、栄養バランスを考慮した献立が作られ、食品摂取量・水分補給量のチェック表に記入し、入所者の栄養の摂取量・水分の補給量を常に見守る体制づくりが出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前にはクリスマスを前にリースが飾られ、ベンチが置いてあり、くつろぎの場所となっている。新築ホームではない事を感じさせないリフォームで、部屋の窓は障子窓、畳やフローリング、ソファと心地よい空間作りとなっている。食卓では調理の準備等もでき、入居者を見守れる配置になっている。トイレ・洗面台は車椅子対応で必要に応じた手すりが設置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者の残存能力を活かせるようにと、畳に布団の生活と、ベッド利用の方と、一律ではない支援が行われている。居室は畳とフローリングでスッキリと片づけられ家具の持ち込みや、職員から一人ひとりに合わせた漢字一字の心のこもった色紙や、家族との写真・メッセージなど飾り付けてあり心地よい感じであった。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あかね苑
(ユニット名)	1 ユニット
所在地 (県・市町村名)	天草市久玉町5716-9
記入者名 (管理者)	長畑 秀範
記入日	平成 19年 11月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あなたのご家族や地域の方々との結びつきを大切にしたいサービスを提供します」と理念にあるように、地域行事に出掛けたり迎え入れたり、カンファレンス時にも関わりについてスタッフと話し合っている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現場や勉強会、スタッフとの面談時、朝の申し送り時に説明し実践に繋げている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には面会時に状態報告を行いながら理念に基づいたサービスを行っている事を説明する。また運営推進会議の中で地域の代表者に伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣りにパワーリハビリ棟があり、リハビリ終了後に立ち寄り、お茶を飲んで行かれたり、苑庭を買い物通り通行して行かれたりとオープンにしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域文化祭への参加やどんど焼き等への参加。又ボランティア活動として婦人会が行う道路の清掃活動へ参加している。子供達との交流としてふれあい学級の場として利用してもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症についての理解やその介護などについての説明会を老人会、婦人会の集会へはたらきかけ20年度の行事予定に入れて頂けるよう各会長と調整中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価資料を基に現段階での評価を知り改善点など全員で話し合い改善へと繋げている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	内部評価、外部評価の中味について説明を行い現段階で評価に向けての準備段階を説明一部の委員が他施設の評議委員でもあるため貴重なご意見を頂き実践へと活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	居宅支援事業所が隣の建物にあるため、用件終了後立ち寄って頂きサービス提供状況や雰囲気を見てもらったり、新しい情報を頂いたりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	天草市が出しているパンフを基に勉強したり、特に地元で行われる講演会、勉強会へは参加し理解を深めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については絶対にあってはならない事であり職員へは全国で発生している事件発覚時に話題として出し防止へと繋げている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書と重要事項の説明を行い、質問にも苑の対応等十分納得して頂いたうえで契約している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し記載して頂けるようにしている。外部者また口答でのクレーム等に関しては記載し直ちにカンファを開き検討し新たな対応をする。施設長への報告も当然行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に近況報告を行うのは当然で、遠方のご家族へは領収書発送時に写真やメッセージを添えて報告をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご意見は素直に受け止め運営推進会議での報告やその後の改善点の報告をご家族にしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中で発生する意見など出しやすい雰囲気作りと、その意見に対し改善すべき所は直ぐにでも改善している。また、個別に面接の機会を設け日頃の思い感ずる所を聞き出し改善へと反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常に状況に応じての対応ができる様な態勢は取れている。また職員も協力する事を惜しまず居てくれる。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動に関しては顔馴染みの職員配置に努め最小限となる様にしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎水曜日に研修会を開催している。また最終水曜日には他部署からの専門的な立場での研修会を実施している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の訪問(見学含む)などに関して受け入れたり、入居希望者の情報など連絡を取っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	数ヶ月に1回の食事会を開いたり、休憩時間を使っての気分転換ができるよう苑からの外出等行うようにしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月第2、第4火曜日に管理者、ケアプラン作成担当者を混えた会議を実施し、苑の実情把握に努め、苑全体の研修会開催も行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問を行い安心して苑に来る事ができる様に色々な話しをして人間関係を築くよう時間を作っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問によりご家族の一番の悩み、望みなどよく聞く機会を作り苑での生活を話したり見学をすすめたりして安心してご家族を入居させるための信頼関係を作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何が必要かを見極め他の居宅サービスの紹介や手配のお手伝いをしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接している認知症デイサービスの利用など提案し馴染みの関係づくりに努め、徐々に慣れて頂く方法を取っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔からの習慣や知識、残存機能を十分に生かしてもらえるよう準備したり、職員への学びの場として色々な場面で関係を維持している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	例えば自宅外泊も可能な限り行えるよう、ある面では協力して頂く事もありご家族と共同で支えるように心掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居された事によりご家族にゆとりが出来た部分で本来の家族関係ができていと感じる。そのため一緒に過ごす時間を多く持っていただくよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理美容院に定期に通ったり、スタッフと自宅やその近辺に行き記憶が甦ってくるよう支援したり、顔なじみの方への来苑もお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	他入居者の心配をされて手伝いをされる事が多々見られたり、他の居室へ遊びに行かれる光景も見られている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された後も本人、ご家族との交流は続いている。またできる限り続けられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	研修会で話し合ったりして把握に努めているが、集団生活という事もあり難しい点もある。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ケアマネから情報収集が主であるが親戚の方の面会などあった場合、新しい情報が入る場合もある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職歴や生い立ち、ご家族、ご本人の話しを参考にしながら把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成した時点でご家族への説明、スタッフの意見を聞き、かかりつけ医師の意見も聞きながら本人にとって何が一番幸せかをあらゆる方向から検証し作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急遽必要となった新介護計画の説明を本人、ご家族と共にスタッフへ説明している。通常の見直しも同様である。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOAPを用いて入居者の様子、気づきを書き込み変化がわかるようにしている。それを基に計画作成に役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームのみの視点ではなく孔和会が持っているあらゆるサービスの機能を最大限発揮すると共に、他事業者との関係を保つ事によってより良い支援に繋げている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保育園、小学校等との交流や入居者ご家族の演奏会など開くなど楽しい時間を共に過ごせるよう努力している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	他のサービスへの変更希望があった場合、他のケアマネとの話し合いその他必要な支援は最後まで行う予定だが現在までその事例が無い。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	勉強会への参加、そして運営推進会議への出席によりご意見やその時々々の指導を仰ぎ協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望、ご家族のご意見を聞き了解を得たうえで受診へと繋げている。また、受診時に生活状況等の情報提供を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	施設長が医師であり認知症にも詳しく、かかりつけ医であることから受診をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	顔馴染みのナースの配置をしていることから健康面での相談事に乗ったり、診療部門のナースとも協働できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の医療機関との情報交換やスタッフの見舞い等により入院生活が問題なく、早期に退院できるよう相談にも乗っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族の意向について聞き取りをしている。結果として自宅、病院、苑、その時にならないと解らないの順であった。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師を配置している事、併設型で医療機関も近いことから支援体制について直ちに準備できる体制はとれている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケアマネ同士の情報交換、そして主治医の意見を取り入れ混乱が無いよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけ、物事の説明には特に注意を払い行っている。また記録等の個人情報については施錠管理を行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	スタッフの誘導ではなく本人の希望を最大限生かした支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで何事も行って頂き、苑で行う行事なども強制はせず見守りを重視した支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの店に通ってもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の特技や残存能力を生かしてスタッフと共同して行っているが強制しないよう注意している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好物は事前に情報収集しその日の好みの飲み物やおやつを提供している。お酒は出していないがその他は自由にしてもらっている。煙草の愛煙家は現在なし。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツは極力避けている。排尿、排便パターンを調べ声かけを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食後のシャワーや入浴の希望があった場合など柔軟に対応している。一番風呂を希望されたり、季節感を出したお風呂などを工夫し楽しんでもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自由に居室やホール(ソファ)、畳の上で休んでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の役割と思われている事に対し自由にして頂いている。また忘れられたりした場合スタッフや他入居者の手助けがあっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける時など特に自分で商品を決め支払いまでして頂くよう促している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑周囲の散歩や苑庭のベンチで過ごされる時間が多く見られているその時はスタッフの見守りを行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節感を味わって頂くために、その時々場所へ外出している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば自由にして頂いている。手紙の希望は今の所ない。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の面会や来客の場合、居室で過ごされる事が多い。ホールで過ごされる方も居られるが問題は無い。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに添って対応をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	トイレ、玄関、窓以外鍵は無く自由に入出りできるようにしている。玄関については21時に施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	その日のリーダーが主になってホール、居室内での安全を確認すると共に外出者の見守り指示を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ、T型カミソリなど危険な物を除き個人の手持ちとしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者に関してカンファを開き事前に情報を共有化し事故防止に努めている。また自分の目で確認するよう指導している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	器具の取り扱い訓練、イメージトレーニングを繰り返し行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員立会いでの非難訓練や地元消防分団長とのコンタクトを取って直ぐに対応して頂けるようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に説明の中にリスクについても説明を行い理解をして頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	通常と違った行動や異変に気付いた場合スタッフ間での申し送りでも共有化している。またその後の対応も早めに行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服薬に関しては薬局からの説明書を基に用法・用量を確認し服薬支援を行っているが、詳しいことが必要な場合にはドクター、薬局へ問い合わせを行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維を意識した食事内容と管理栄養士の立てた献立を中心に提供したり、運動面でも体操や散歩により予防している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きを促したり、入れ歯の清潔保持に支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に水分摂取について確保出来ているかをチェックし補給できるよう内容に変化をもたせる工夫をしている。栄養バランスは管理栄養士の献立中心に支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルやその時々々の流行に合わせて勉強会を行い予防に対する認識の共有化を図っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	こまめな買い物と台所の衛生管理、賞味期限の確認など確実に行うよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場や施設の出入り口、玄関はオープンにしておき出入り自由としている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節をわかって頂くためにホールの飾り付けなど変化していくよう努めている。またテレビ、CDの音量にも不快とにならないよう注意している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼でテレビを見たり、ソファに座り会話をされたり、また手作業などテーブルで行えるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの持込み家具等をできるだけお願いし、使い慣れたものを置く様お願いしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気等は特に努めて行いエアコンの温度管理はスタッフで行うようにしている。空気の乾燥など濡れタオルなどの使用で対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全ての人をベッドでの生活にするのでは無くその人の自立へ向けた工夫を行っている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には氏名札を無くしイメージが付く飾りで対応している。トイレ等に関しては場所の判断がつかれるまでは案内用紙を貼り対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	苑庭にベンチを置いたり、草花や野菜作りを楽しんで頂くようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症介護についての職員のレベルアップのための研修会。また地域に受け入れて頂くための体制作りで地域交流を主に行っている

